市民から見た現行教科書の見直し

２１世紀のライフスタイルを考える特別委員会委員長　梶原光恵

第３回「教育」の続編として教科書の見直しをしました！５月の高校生や先生、また７月の「神戸の事件を考える町内会」と、いろんな方と話し合いを続けてきましたが、学校がつまらない中に教科書の問題が在るのではないかと思い９月２６日委員だけで検討しました。

その提言書を２９日、大久保にある第一教科書供給株式会社の藤木重忠氏に渡し、３０日には町村文部大臣に《平成維新を実現する都民の会　２１世紀のライフスタイルを考える特別委員会委員長・梶原光恵》の名前で郵送しましたのでご報告致します。

歴史教科書に関しては、自虐的でも無く、また自由主義史観にも片寄らず普遍を目指しました。

私なりに長年の肩の荷を下ろすことが出来ホッとしています。あとは実現をお願いするだけです。

（１）意図

２１世紀日本がどこへ行こうとしているのか、私たち自身で点検する必要がある。それには、直接子供たちを教育する教科書を私たち自身で読み、見直す事である。

（２）問題点

日本の高校までの教科書は、内容が全部目次のようで総花的である。一つの事物に５～６行しかなく表面をなぞるだけ、これでは学問とは言えない。然もひとつひとつが全くバラバラで繋がりが分からない。高校で脱落する者が多いはずだ。

（３）解決への提案

教科書では、知識を短編的に羅列するのではなく、人間を社会の構造を深く理解させることが重要である。それでこそ心の教育となる。また国際人というものは、自国の文化・歴史を熟知し他国のそれと比較し得る人材である。そのための歴史教育・国語教育は現行のままでは不十分と思う。また生物や科学でも人間の傷・病気など生活上の知識が欠落し、法治国家と云いながら社会人として必要な憲法・民法・税法などを高校までに教えていない。花屋を経営するには組合に属し市場で競るにも資格がいる、スーパーを経営するにも魚・薬・酒などすべて別々に資格が必要等の常識である。

以下、まず高校の歴史・古典教科書に関して新提言を述べる。

【１】歴史と古典はお互いに補完し合う学問である。

『古事記』は歴史としては教えられなくとも、古典としては日本人がギリシャ・ローマ　神話と並ぶ文化遺産として冒頭で教わるべきものである。トロイのように将来日本のシュリーマンが出ないとも限らない。また地名の由来も地理への興味となる。

『魏志倭人伝』も李白や杜甫の漢文と並んで教われば、歴史に血が通い、古典を習う重　要さも自然に身につき、歴史・古典が一層面白くなる。

『論語』乱世にあって人間いかに生きるべきか、なにが幸せかを孔子の言動から著した書物。2500年前に乱世から秩序を取り戻した思想として現代の若者も頭に入れる必要があると思う。

『平家物語』特に冒頭は仏教の教え因果応報が端的に表れている。貴族文化から武家文化に転換して行く曲がり角として歴史的にも重要である。またこの心があれば、第２次　世界大戦で犯した選民思想の過ちは無かっただろう。

『源氏物語』なぜ入れたかと言うと、高校３年位になればもう大人も近い。男女間の文化も教えないと幼児性が残る。若者宿もほとんど無い今の日本の男子は大人も含めて幼児性が抜けないのではないか。

ほかに最澄の『一隅を照らす』という教えや親鸞の一説、万葉集の防人の歌、徒然草、方丈記など歴史を深く理解することが出来るであろう。そして心の教育ともなると確信　する。先人たちの心の迷いや葛藤が現代の私たちにも共通するからである。

【２】詩吟や講談ではよく取り上げているが、織田信長・武田信玄ら武将の戦時の心理を読み解く謡や日記は「心の教育」になる。西郷隆盛が西郷南洲として詠った辞世の詩も、四面楚歌の心境を詠い見事である。こういう詩が苦境に立った時、支えになるのである。ヤマトタケルの昔から武将は神への信心なしには戦えないのである。強いようでいて人間は弱いものである。

【３】現代国語で取り上げて欲しいのは、江戸時代の大阪商人の信条や商家の在り方である。また松下幸之助、本田宗一郎、中内功、ソニーの盛田氏やセナミックの稲森氏の自叙伝や、江戸から明治・大正と呉服屋やがデパートに両替商が銀行にと移り変わった歴史を紹介してもらいたい。日本の経済は何百年の歴史があるのである。

現代の若者に企業家精神を学んでほしいと考えている。それは２１世紀においても日本が進む道だからである。

【４】歴史の教科書（日本書籍・中学社会ｐ214 ）で与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」だけ載っているのは片手落ちと考える。太平洋戦での軍歌「月月火水木金金」を載せ戦争に負けた日本人が戦後この精神で経済復興したことを書いて欲しい。

【５】もうひとつ現代国語で取り上げてほしいのは「きけわだつみの声」である。

先の戦争で学徒は何を思ったか、なぜ戦ったか、知ってほしい。家族のため、愛する故郷の山河のために戦うことは悪いことなのか。

【６】家永裁判は終わったが、太平洋戦争でしっかり教えてほしいのは大義名分と実際が違うということである。新聞やラジオが国民にどう伝えたか、外国を知っている一部の人たちには初めから分かっていたかも知れないが、「勝った！勝った」と伝えられそれを信じてしまった国民の愚かさ、またマスコミの罪。いま満州事変がおきたら私たちは軍の嘘を見抜けるだろうか。マスコミは本当の事を言えるだろうか。

それから物資もなくて戦争を続行するな！という事である。国の倒産である。そのために多くの兵士が外国で餓死し、その国の人々からも奪う事となった。もはや武士道などかけらもなく倫理に反する餓鬼道である。